

# 第5回総会開催

会場：上伊那教育会館 講堂

2021.3.4

## 教育会長あいさつ

上伊那教育会 会長 小澤 徳夫

代議員の皆様には、登校日数も残すところ10日ほどとなった大変ご多用の中、第5回総会にご参集いただきありがとうございます。今回も、感染症対策として中学校区1名の参加とさせていただきました。教育会の歌「仰望」を1回も歌うことができずここまで来てしまったこと、大変さみしく残念に思っています。

各学校では、今年度のまとめと次年度の計画を練っているところだと思いますが、教育会も同様に、次年度に向けて動いています。前回、第4回総会でも触れましたが、組織の改編と活動内容の見直しを進めるなかで、委員の自己推薦にも力を入れてまいりました。その結果、昨年度末を大きく上回る44名、委員総数の20.5%の先生方に手を挙げていただくことができました。このことを、大変うれしく思うと同時に、意欲に満ちた先生方が満足感を味わえるような活動にしなければいけないと、重圧も感じているところであります。

2月初旬から中旬にかけて、先生方との面談を行いました。多くの先生方の評価支援シートには「今年は様々な研修に参加できなかった」というようなことが書かれていました。研修の必要性を感じていることがわかりうれしくなりました。上伊那教育会の様々な研修事業が、職能向上の場として、そして、先生方のつながりをつくっていく場として、今後ますます重要になっていくのではないかと感じています。自信と自負を持って、会員の皆さんと共に歩む上伊那教育会として、さらなる充実発展を目指していきたいと思います。

今年度はコロナ禍で思うような事業が展開できず、例年より支出が少なくなりました。これを、会館の環境整備のチャンスととらえ、Wi-Fi環境の充実とプロジェクターやパソコンの購入費に充てさせていただきました。それでも残高が多くなったため、年10回の会費徴収のうち、最終2月分は徴収をやめました。

サイボウズが使えなくなるということで、その対応が急がれました。これまでサイボウズ社には、使用料として月3万円、年36万円の支払いをしていました。これを機に、無料ソフトを利用することとし、会員の中からこの方面に堪能な方に構築を依頼し、本格稼働を迎えることができました。大きな節約につながりました。

本年度も各校より信濃教育会研究論文・実践賞への応募をいただきました。その中で、赤穂東小学校 原 猛 先生の論文「読みの観点を明確にした『読むこと』の指導のあり方について～文学的な文章を「対比」しながら読む学習～」が準特選となりました。本日、表彰させていただきます。

一年間の実践を一つのレポートとしてまとめるということは、自身の取組の振り返りとなるとともに、次への課題が明確になり、そのこと自体が素晴らしい研修であります。代議員の先生方には、学校に戻られましたら、応募していただいた先生にお礼と激励の言葉をかけていただきたいと思います。

終わりに、もとより力のない名ばかりの会長で、コロナ禍のなか、一年間会員の皆さまには大変ご迷惑をおかけしましたが、皆様のお支えのお陰をもちまして、何とか本日まで来ることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



冒頭、今年度の教育会を振り返る小澤会長

## <第5回総会 次第>

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 信濃教育会第24回教育研究論文  
教育実践賞贈賞式
- 4 報告(報告事項なし)
- 5 議事
  - (1) 第1号議案「令和3年度上伊那教育  
会事業計画(案)の承認」に関する  
件
  - (2) 第2号議案「令和3年度上伊那教育  
会収支予算書(案)の承認」に関する  
件
  - (3) 第3号議案「令和3年度上伊那教育  
会資金調達及び設備投資の見込  
み(案)の承認」に関する件  
※全ての議案は承認されました
- 6 諸連絡
  - (1) 「令和2年度 教科部研究のまと  
め」について
  - (2) 令和3年度教育会新規加入・リーフ  
レットについて
  - (3) 令和3年度教育関係年間計画につ  
いて
  - (4) 令和3年度教育会各種委員推薦に  
ついて
  - (5) 令和3年度役員選挙について
  - (6) 令和3年度教科等教育研究会加入  
について
  - (7) 上伊那教育会グループウェア「ケル  
ン」について
- 7 議長退任挨拶
- 8 閉会挨拶
- 9 閉会

# 信濃教育会 第24回教育研究論文教育実践賞 『準特選』受賞論文贈賞を行いました

例年、年度末の総会で信教教育研究論文の受賞論文の表彰を行っています。防災教育のように学校運営にかかわるものから日々の授業改善につながる授業研究まで優れた教育実践が数多く受賞してきています。

今回、「準特選」を受賞された原先生の論文は、中学校に勤務していた時、生徒から「国語はどう勉強していいかわからない」「文章ってどう読んでいいかわからない」と言われた経験を思い起こし、叙述をもとに登場人物の心情を考えるとという授業をしていたが、具体的な「読みの力」をつけていなかったことを課題として、授業改善に取り組まれています。「読みの力」をつけたいという願いは、多くの学校で共通している課題です。題材「プラタナスの木」は、授業研究でよく取り上げられる教材であり、とても参考になります。総会で各校に配布されていますので、ぜひご一読いただき自校の授業改善に生かしていただきたいと思います。



小澤会長より贈賞



受賞の喜びを語る原先生

## 読みの観点をもとにした「読むこと」の指導のあり方について ～文学的な文章を「対比」しながら読む学習～

駒ヶ根市立赤穂東小学校 原 猛 先生

### <研究と実践の概要>

文学的な文章を扱う授業では、「登場人物の気持ちを考えよう」という学習問題を設定することが多かった。授業のまとめでは「登場人物の気持ちが分かって良かった」と書かれることが多かったのだが、それが子どもに読む力をつける授業になっているのか、疑問を感じていた。

今年度の全校研究テーマ「豊かな感じ方で、自分の思いを表現し合う子ども」を受け、国語科グループでは、子どもの実態から「国語の授業でどんな力を付けたい」「どんな国語の授業を目指したいか」を話し合い、そこから「子どもが物語と向き合う中で、叙述をもとに自らの考えをもち、表現し合う中で“読みの力”を身に付けられる国語の授業」と共通のテーマを決め、各々の課題に応じて個人研究を行った。

「叙述をもとに読む」、文章を読むときによく言われることだが、具体的にはどうすることなのか。そこで「読みの観点」を明確にすることで、「何に着目して読めば登場人物の気持ちが分かるのか、文章が理解できるのか」を子ども自身が実感でき、そのスキルが他の文章を読むときにも活用できるのではないかと考えた。今年度は「対比」に重点を絞り、言語活動や単元を通じた学習問題等、授業構想や指導のあり方について研究・実践を行った。

### <研究の成果>

- ① “読みの観点”を明確にして読むことは、文学的な文章を読むにあたって、登場人物の心情を捉えたり、文章を読み深めたりするのに有効である。
- ② “読みの観点”を明確にして読むことで、子ども自身が読むためのポイントを意識し、様々な文章を読む際の手掛かりにすることができる。

※研究の詳細は、各校に配布された論文をご覧ください。

## 令和3年度上伊那教育会入会のお願い

本総会で令和3年度事業計画が賛成多数で承認されました。授業力の向上を目指し、より授業実践力を磨く場になるための組織変更を行っています。これにより、事業内容を見直した委員会や新たに組織した委員会がスタートします。多くの先生方に入会していただき、コロナ禍にあっても「つながり、学び合うことの大切さ」を実感しながら切磋琢磨して学び合い、教職員としての底力をつけていきましょう。

教育会入会のメリットには次のようなものが挙げられます。

- ①教育会の事業や研修には「職免」で参加できます。（授業公開を伴うものは校長の許可で出張扱い）
- ②教育会諸事業は初任研及びキャリアアップ研修Ⅱ、Ⅲの選択研修や校外研修として位置づけられています。
- ③慶弔費の給付や入院に対する見舞金の給付など、厚生福祉事業が充実しています。

## 「教科部研究のまとめ」を配布しました

今年度は、コロナ禍で、教育課程研究協議会が実施できない中、各教科の委員の先生方が指導主事の伝達講習の内容や新学習指導要領に関する内容など、工夫してまとめてくださいました。各学校の2冊配布をいたしましたが、多くの会員の方に見ていただくために、データ化しファイリングしてあります。KERNのファイル→令和2年度→上伊那教育会→教科部→教科研究のまとめ を開いていただき、個人、学年会、教科会、職員会、職員研修などでご活用ください。